

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90分 (文学部 105分)

## 解答形式

記述式 (一部マーク式)

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

大問Ⅱの語数が1079語と、これまでより大幅に増加した。また、昨年から出題され始めた英語で解答する設問は、今年は「自由英作文」だった。

昨年、大問Ⅲの自由英作文は「グラフの読み取りを元に記述させる」という、それまでにないものだったが、今年は以前と同様の出題形式に戻った。

## その他トピックス

なし。

## &lt;大問分析&gt;

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I (A)	英文解釈 (92 words / 下線部 55 words)	高度な社会的認知 能力は人間固有の ものなのか?	英文の意味を把握すること自体はそう難しくはなかろう。もっとも、第1文と後続部の文脈上の連携が薄く、何がテーマなのかが掴みづらかったかもしれないが。第1文の the nature and origins of human social capacities での並列関係の把握、第2文の distinctively, discipline, hypothesize, facilitating といった語彙の知識が答案の出来を左右するものと思われる。	標準
I (B)	英文解釈 (53 words / 下線部 53 words)	小説における気付きと歴史における気付きの差異	時折見られる「全文和訳」形式での出題だった。とはいえ文内容の理解は比較的容易。scales fall from their eyes の意味を把握し損ねた受験生が相当数いると思われるが、「規模が目から落ちる」では意味を成さないことと、第1文全体の内容を考慮に入れれば、「ものの見方が変わる」といった意味合いであろうことは十分に判断できるはず。	やや易
Ⅱ	読解総合 (1079 words)	動物は芸術を生み出せるか	論旨のはっきりした標準的な英文である。設問(1)は従来通り語句レベルのパラフレーズ問題で、どれも平易。設問(2)では、下線部に関する説明として最も適切な英文を選ぶ。設問としては標準レベル。設問(3)(4)はいずれも説明問題で、書くべき内容の特定は容易である。設問(5)は、昨年同様、英語で記述させる問題。本年は、本文の内容に関連した40~50語の自由英作文が出題された。本文中で言及されている具体例の最低1つに触れるという条件を満たした上で、自分の主張を明確に述べられるかがポイント。	標準

III	自由英作文	「ポスト真実」の時代に求められる知性や技能	「『ポスト真実』の時代を生きる上で物事のありようを見極める力を養うために、学問研究を通してどのような知性や技能を磨くことが求められると考えるか。具体例を挙げて述べよ」という設問。これから学問研究の世界に足を踏み出そうという段階の受験生の中には、途方に暮れた人もいたことだろう。「学問研究」、「知性や技能」、「具体例」に抜かりなく言及しつつ論を組み立てるには相当の集中力を要する。	やや難
IV(A)	英作文	音の感じ方の個人差	阪大にしては「易しい設問」と言えよう。「ここで注意したいのは」は <b>What you should be aware of here</b> などと簡単に処理できるし、「個人差が大きい」も <b>vary from person to person</b> というお馴染みのフレーズをベースに処理できる。また「人によって…なこともあれば、別の人にとっては…なこともある」なら、 <b>While some people ..., others ...</b> といった展開に持ち込んでもよい。英作文学習で頻出の表現を適切に使用できるパートの多い設問だった。	やや易
IV (B)(イ)	英作文	「じぶんの身体」の知覚	なかなか哲学的な内容の日本語ではあるが、解釈が難渋な部分はなく、冷静に日本語を読み込めば大きな減点要素の無い答案が書けるだろう。「情報は…貧弱なものだ」は要は「情報はわずかだ」ということ。 <b>limited</b> で簡単に処理できる。「背中や後頭部」は語彙力で突破するしかないパート。「他人がこのわたしをわたしとして認知してくれるその顔」では日本語の適切な整理が必要。これは「他者がその人固有の知覚で捉えている私の顔」といった意味と解釈するのが妥当だろう。ひょっとすると、出題者はこのような解釈へと受験生を誘導する役割を(A)の設問に与えていたのかもしれない。うがちすぎだろうか。	標準
IV (B)(ロ)	英作文	科学者に求められる資質	「頑迷」には「頑固な」という意味を表す <b>obstinate</b> や <b>stubborn</b> , また <b>dogmatic</b> 「独善的な」といった語をあてたいところではあるが、 <b>firmly believe</b> といったフレーズを適切に組み込んで乗り越えることも出来よう。与えられた日本語には因果関係を表わすパートが次々と出てくるので、同じ表現の繰り返しにならないよう表現を慎重に選ぶことが望ましい。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

どの設問にも、英語であれ日本語であれ、文章が伝えようとしているメッセージを正確に探り出す能力を試そうとする姿勢が貫かれている。同時にまた、正しい英語学習の過程で身につくであろう知的教養の有無も試していると考えられる。これらの要求に応えるには、学習した素材を何度も復習し、自分自身の中にある英語理解を「深い」ものにしていく必要がある。「手っ取り早く設問に答える方法」を追いかけているようでは、求められている資質は獲得できない。むしろ、「時間のかかる」学習こそが、大阪大学合格への一番の近道であることを実感してもらいたい。